

## 17. Langerhans cell histiocytosis と骨シンチグラフィ

鈴木 宏昌 馬場二三八 森 雄二  
 安藤 啓一 太田 剛志 遠山 淳子  
 水谷 弘和 大場 覚 (名市大・放)

[目的] LCH の4症例の骨シンチ像について検討した。

[結果] LCH の4症例で上腕骨、頭蓋骨、脊椎、大腿骨等13病変を認めた。骨シンチグラフィでの所見は、集積亢進、集積低下の周囲にリング状集積亢進、異常集積なしの3種類であった。骨シンチグラフィで異常を指摘できなかったのは6病変、スクリーニングX線写真で指摘できなかったのは2病変、両者で指摘できずCTのみで明らかとなった症例は1病変であった。

[結論] LCH の骨シンチグラムは様々な所見を呈し、X線写真と併せて読影することが必要と考えられた。

18. <sup>18</sup>F-FDG-PET を用いた甲状腺腫瘍の質的診断の検討

植松 秀昌 定藤 規弘 土田 龍郎  
 高橋 範雄 米倉 義晴 林 信成  
 山本 和高 石井 靖

(福井医大・放, 高エネ研)

目的: FDG-PET が甲状腺腫瘍の良悪性の鑑別に有用か否かを検討した。

方法: 甲状腺腫瘍患者11人についてFDG-PETを施行し、SUVにて評価した。8人については、graphical analysisより得られたKcによる評価も行った。これらの結果を病理結果をもとに比較検討した。

結果: 手術の結果4人はpapillary carcinoma, 5人はfollicular adenoma, 1人はadenomatous goiter, 1人はchronic thyroiditisであった。SUVカットオフ値5.0 mg/ml およびKcカットオフ値10 micro l/min/mlにて良悪性の鑑別は可能であった。しかしながら慢性甲状腺炎は著明なFDG集積を示しカットオフ値をうわまわった。

結論: FDG-PET は甲状腺腫瘍の良悪性の鑑別に有用であった。

## 19. 肺癌原発巣のFDG集積とリンパ節転移との関連性

元村有紀子 綾部浩一郎 王 曉明  
 谷口 充 大口 学 東 光太郎  
 興村 哲郎 山本 達 (金沢医大・放)  
 関 宏恭 (金沢循環器病院・放)

目的; 肺癌原発巣のFDG集積程度とリンパ節転移の頻度との関連性について検討する。方法; 術前にFDG-PETを施行した非小細胞癌手術症例44例を対象として肺癌原発巣のFDG集積程度とリンパ節転移の有無とを比較した。FDG集積の評価として視覚的grading(0:集積なし, 1:縦隔より弱い集積, 2:縦隔と同程度の集積, 3:縦隔よりやや強い集積, 4:縦隔より著明に強い集積)と半定量的評価(SUV)を用いた。結果; リンパ節転移は44例中9例に認められた。肺癌原発巣のFDG集積が弱い(grade 0-2)症例15例にリンパ節転移陽性の症例は認められなかった。これに対し、原発巣のFDG集積が強い(grade 3-4)症例29例中9例にリンパ節転移が認められた。結論; リンパ節転移はFDGの集積が弱い症例には認められなかった。このことから、肺癌原発巣のFDG集積とリンパ節転移の頻度との間の関連性が示唆された。

20. 低酸素診断薬剤<sup>62</sup>Cu-ATSMの肺癌に対する有用性の評価

高橋 範雄 土田 龍郎 山本 和高  
 石井 靖 (福井医大・放)  
 藤林 靖久 脇 厚生 定藤 規弘  
 米倉 義晴 (同・高エネ)

肺癌6例を対象に<sup>62</sup>Cu-ATSM(ATSM)を用いて癌組織における低酸素組織の画像化を試みた。全例に対して<sup>18</sup>F-FDG(FDG)を、4例に対しては<sup>15</sup>O-H<sub>2</sub>Oを用いたPETを施行し、ATSM集積と比較検討を行った。全例において腫瘍へのATSMの集積が認められ、4例中2例では血流と比較的良好な正の相関が認められた。一方、FDGとATSM集積の間には相関はみられなかった。

ATSMは血流依存的に組織へ輸送されるが血流とATSM集積の回帰直線の傾きは症例毎に異なり、その集積機序は正常組織における低酸素状態とは異なる